

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800309		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム鶴城の郷(ユニット名)すずらん		
所在地	空知郡南幌町南18線西11番地		
自己評価作成日	令和2年10月26日	評価結果市町村受理日	令和2年11月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0175800309-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鶴城の郷は平成15年10月1日に開設されています。2ユニット、18名様の入居が可能です。南幌町の市街からは離れていますが、建物の空間が広く、開放的な雰囲気です。周囲は農家の方が多く、窓からは麦畑や田んぼの風景がみられます。入居者様も農家の方が多く入居されています。時期になると窓から田畑の様子をみて季節を感じておられます。南幌町の夕日はとてもきれいで有名ですが、鶴城の郷からもきれいな夕日を入居者様と一緒に楽しむことができます。1日1日、自然を感じながら、のどかに生活時間が流れていきます。グループホーム鶴城の郷のケア理念にあげている「ひとりひとりのペースを守り共に支え合う」ことが、自然の中にある立地条件によって、より豊かにケアを実践できていると思っております。現在はコロナの流行によりご家族様の面会の制限、地域の皆様との交流ができていない状況下ではありますが、ご家族様には毎月個別にお便りを作成し、日々の様子をお伝えしています。また、感染防止対策しながら、施設内で楽しめる行事を企画し、実行しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和2年11月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム鶴城の郷」は広大な田園地帯に囲まれた静かで自然豊かな環境にある開設18年目を迎えた平屋建て2ユニットの事業所である。多種の医療介護福祉サービス事業を展開している医療法人が運営母体である。医療面や職員研修等、利用者サービスに係る様々な面で連携が図られており、施設設備では家族アンケートの意見を受け事業所内にエアコンが設置され居心地のよい空間へと改善されている。身体拘束適正化に向けた会議等の取り組みも推進している。職員の定着率が高い事や年齢層も幅広く、利用者との馴染みの関係を保ちつつ柔軟且つ多様な視点で援助を行っている。感染症対策のため地域交流は自粛であるが例年、学童保育児童の訪問交流やボランティアの受入れ、事業所行事に地域住民を招待するなど時々家族も交え、賑やかで心温まるひと時を過ごしている。介護計画は利用開始間もない利用者の入居への納得に向け家族の協力を得て毎日夕方に電話で話す事を盛り込んだ結果メンタルの安定に至ったり、畑仕事が日課であった方へは事業所の畑で職員と一緒に作業により生活が前向きになった事例や体操が好きな方へは日課に盛り込み1日のメリハリが見られるようになるなど、より良いケアにつながっており職員の日々の努力と成果が窺われる。家族からは本人が以前の姿に戻ったようで嬉しいとの声も寄せられている。施設内で楽しめる行事を盛り沢山に企画中である。理念に則り、利用者の生活の支え手になっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、スタッフルームや契約書に提示。職員やご家族様と共有できるようにしている。また、年間の事業計画では、個々や地域密着を意識した行事を企画しています。	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだケア理念を標榜している。理念は重要事項説明書に明示し家族等へ説明している。また要所への掲示や年2回の職員個別面談の際に意識づけを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和元年度は、バーベキューや餅つき、地域の方やご家族様に参加して頂いた。また、学童交流の一環として、夏休み期間に子供たちがホームに来訪。一緒にゲームや七夕行事を楽しむことができた。令和2年度については、コロナ渦のため、地域の交流や面会の制限、外出の制限の状況です。	例年、事業所に学童保育の児童が訪れたり、バーベキューや餅つき行事に地域住民を招いている。アコーディオン演奏のボランティアや自習生の受け入れを行っている。今年度は感染症対策の流行で交流や受け入れは自粛中であるが、幼稚園児の元気な活動の様子等をDVDでの鑑賞する事を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学童保育の生徒の訪問や地域行事への参加、実習生の受け入れを通じて、理解していただく場としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を実施。報告と話し合いを行い、地域の方や保険者からの意見やアドバイスをいただき、運営に反映させている。令和2年度～コロナの感染症対策として、外部の方の出入りが禁止の状態となり、書面での報告を2ヶ月に1回行っている。	定期開催に努め、4月からは書面会議にて開催している。家族アンケート実施後のフィードバックや活動状況、新型コロナウイルス感染症予防対策等を報告している。通常期は事業所行事と同時開催する月も設定し、より多くの家族参加を募っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、情報交換を常に行なっている。通常は運営推進会議や避難訓練への参加もお願いしている。令和2年度は会議や訓練の参加はお願いできませんでした。主にコロナの関係で情報共有していることが多いです。	町の介護保険課等の担当者とは、運営に関する情報交換を密にしている。介護保険課の依頼により、緊急時の受け入れを行った事例があり、協働関係を築き町民福祉に寄与している。町や運営法人の指導等により新型コロナウイルス感染症予防対策を強化している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針を契約書に提示。契約時、ご家族様に説明している。職員は内部や外部の研修に参加したり、身体拘束委員会が拘束チェックシートやセンサー使用者の見直しを毎月行っている。正面玄関は夜間以外は常に入出入りできる状態です。奥の玄関のドアは離設を予防のため、ブザーを設置している。	身体拘束廃止に関する指針を整備し、重要事項説明書に明示して家族等へ説明している。毎月、身体拘束委員会を開催し、身体拘束チェックシートでの確認やセンサー使用状況等の内容評価を記載している。機能訓練士から下肢筋力の状況等のアドバイスが得られ、リスク回避等に役立てている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部の研修やミーティングの場で不適切なケアに繋がっていないか振り返る機会を設けている。また、日々の業務で職員同士がお互いに注意し合えるように心がけている。		

グループホーム鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象となる入居者様はいませんが、必要性に応じて、関係者に都度相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づいてご家族様にご説明をしている。改定の場合は、改定内容の書面通知と同意書を頂くようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際にご家族様に最近の様子をお話する機会があったが、現在はコロナ渦により面会の制限があり直接意見を伺う機会が少ない。電話での連絡が主となっている。アンケートの配布を行い、運営に反映させている。	サービスの質や環境等についての家族アンケートを実施しており、意見を受けエアコンの設置に至るなど運営に反映させている。感染症対策中の現在は接する機会が限られ、電話や個別便り等で家族へ報告を行い、利用者からの要望は内容に応じてその都度関係者間で相談し対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンスでの話し合いの他、日々の業務の中でも遠慮なく話し合える関係性を意識している。また、職員と管理者は年に2回の個人面談があり、悩みや意見を出し合う機会がある。	年2回管理者が職員との個別面談を実施し、個別相談等に応じる機会を確保している。定期ミーティングでは年間計画に基づいた施設内清掃、休憩や食事時間のあり方など、職員の意見や情報を取り入れ一緒に話し合い調整を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や目標達成に応じた評価を行なっている。職員の個人面談を行い、労働条件等の希望や把握に努めている。体調や年齢、家庭の状況に考慮した勤務体制に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会の参加の機会やグループホーム内での伝達研修を行なっている。新人職員が入職した場合は、研修期間を設け、担当を配置している。個人のスキルアップのための研修や資格の取得のための試験はシフト作成時に考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	令和元年度は、町内のグループホームと3ヶ月に1回、情報交換する機会や合同で普通救命講習を消防署で行った。令和2年度はコロナ渦にて実施できていない。		

グループホーム鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様や利用していたサービス機関の関係者からの情報をもとに、ご本人様の不安や要望に耳を傾け、習慣への理解や落ち着いた環境(場所や職員、相性の合う入居者様とのペアリング)の提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時に困っていたことや入所後に心配されていることや要望をご家族様と話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居調整段階で必要なサービスを把握し、他業者への依頼を含め、スムーズに入居時にサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事参加や趣味活動等と一緒にやっている。日々の暮らしの中での役割やご本人様の思いを大切に開くように心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や行事と一緒に参加をさせていただいたり、毎月個人便りで近況報告しています。また、面会時の情報の交換など共に支え合える関係性を築いています。令和2年のコロナが流行してから、制限されている部分がありますが、電話やお手紙等で出来る限りの対応をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人への電話や面会の支援、お寺や病院等、以前から利用しているところが継続できるようにご家族様の協力をいただきながら支援に努めている。	現在は難しいが家族の協力を得て墓参りや一時帰宅をサポートし、他ユニットで暮らす同級生との交流を支援している。寺院から案内文書が届いた際は職員が説明し希望に応じている。元農業の方も多く広い農地に囲まれた周辺環境が馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、食事の席やソファの工夫、外出時のメンバーに配慮している。また、交流が少ない入居者様もいますが、負担にならない程度で活動や行事にお誘いしています。		

グループホーム鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の行き先の確保に協力し、利用者様やご家族様が不安にならないようにしている。また、退所先に情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活記録にご本人様の言葉を記載するように心がけている。その人らしさを重視したケアプランの作成に努めている。年間の習慣行事の要望はできる限り希望に沿って対応できるように工夫やご家族様に協力を仰いでいます。	生活記録に本人の言動を詳しく記録し情報を蓄積している。利用者の表情を見て受け止め感じとるようにし本人の思いへ関心を払っている。利用者の言葉(キーワード)を家族へ伝え、過去の情報につながり把握に至った事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中でご本人様からの話を伺い、ご家族様やケアマネや入所していた施設や通所の関係者等から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や体力に応じた過ごし方を重視している。1日に2回のバイタル測定や精神状態や一般状態の把握し、申し送りを通じてスタッフ全員が把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化時や定期的なカンファレンスやモニタリングを実施、個別の介護計画書を作成している。必要に応じて主治医や看護師、歯科医師や歯科衛生士、栄養士、リハビリスタッフ等に相談することができる。	年2回職員がセンター方式の焦点情報を記載しアセスメントしている。定期等にモニタリングを実施し帳票にて家族の評価を得る仕組みもある。運営法人等の他専門職の意見も取り入れるなど関係者全員で本人を支える介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録は日々のケアに関する変化や気づき、本人様の反応等を記載するように心がけ、カンファレンスやモニタリングで介護計画の見直し、原因の追究に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の他事業所の専門職や町内の歯科医師、訪問理美容と連携をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や学童交流、ボランティア等の地域の方々の活動や協力を定期的に受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、主治医の定期受診や検査の受診同行をしている。その他の専門医への受診はご家族様と相談のうえ、希望する医療機関への受診支援を行っている。	毎月協力医療機関への通院支援を行い、他のかかりつけ医への受診も家族の状況に応じ対応している。現在休止中であるが、月2回歯科の往診体制を整えている。週1回の訪問看護師による健康観察では症状の早期発見等により適切な受診支援に活かされている。	

グループホーム鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションや協力医療機関への情報報告を毎日行っている。また、毎週木曜日は訪問看護の看護師が来訪し、相談や助言、医師の指示に基づいた処置や指導を受けられる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の進行やADLの低下は入院による環境の変化によって起きやすいため、早期に退院できるように病院側との連携に努めている。また、訪問看護を活用する場合がある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針に沿って、利用者様・ご家族様が医師と相談できる体制を作っている。また、契約時に説明し、ご家族様の考えをお聞きしている。経口摂取ができなくなると対応が困難であることは事前にお伝えしている。終末期には、医師の説明と一緒に聞き、ホームでの対応を丁寧に説明している。	重要事項説明書に重度化に関する対応の指針を明示し契約時に説明して同意を得ている。利用者の状況変化に応じ、主治医、家族とその都度話し合いを重ねている。事業所での暮らしが困難になった場合は、医療機関等と連携し移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防での救急の研修(令和1年)や法人の協力を得ながら定期的に研修に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火訓練を実施している。令和2年はコロナ禍にて、訓練はユニットごとで実施。消防の立ち会いや地域の方と一緒に訓練は行うことができていない。	令和1年10月に消防署と地域住民の協力を得て火災・夜間想定避難訓練を実施し、今年8月に日中想定火災避難訓練を行った。避難先に指定している運営法人介護老人保健施設にて災害備蓄品を確保している。	自然災害を想定した臨場時への取り組みなど、想定される内容を網羅し、更なる災害対策の強化に期待したい。また持ち出しリストの作成と準備について取り組み事項としているので実現に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、性格や生活歴に配慮した対応をしている。また、プライバシーに配慮した声かけや対応を心がけている。	言葉がけや誘導等において、誇りやプライバシーを損ねる対応になっていないかどうか、毎月の会議で確認する機会を確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の関わりの中で、自己決定や選択できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや過ごし方を大切にしている。日課は、各自の希望に寄り添って、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容利用し、カットやカラー、パーマを希望を伺って予約している。身だしなみやおしゃれについては、色の好み等はご家族様にご協力を頂いている。		

グループホーム鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片づけは役割を持って行っていただいている。苦手な食材や禁食、咀嚼・嚥下の状況に応じ、代替品を提供している。お菓子や軽食作りの行事は、入居者様とスタッフが一緒に作業を行い、楽しみます。	誕生会はオードブルやケーキで祝い、桜餅やたこ焼きなど職員と一緒にのおやつ作りも好評である。職員は食事が楽しみとなるように工夫を重ねている。食器拭きや片付けなど利用者の力が発揮できるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは専門職が作成している。ご本人様の嗜好に合わせた飲み物や食材で必要量が摂れるように支援している。また、嚥下困難な方はトロミ剤やミキサー、刻み等の工夫をしている。栄養不足の方は医師と相談し、栄養補助食品を提供したり、甘酒をご家族様に購入していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の能力に応じた口腔ケアを行なっている。舌の汚れも必要に応じてケアをしている。変化があれば歯科医院を受診しています。訪問歯科に定期的に診て頂いているが、現在はコロナ感染予防のため、一時中止が続いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけや時間でのトイレ誘導をしている。パットやオムツの使用を最小限に考え、パットやオムツの種類も適時検討している。	個別の生活記録には排泄状態や変化、食事や水分、職員の気づきを記録し排泄パターンを把握している。全員が日中のトイレ排泄を継続しており、職員は気持ちよくスムーズな排泄ができるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	室内散歩やテレビ体操、手すりを利用した体操等運動は毎日行っている。水分補給はこまめに提供しています。オリゴ糖や甘酒、酵素酢、イージーファイバー等を個々に応じて工夫しています。また、起床時に冷たい牛乳を提供し、便秘の予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気分や体調に合わせて入浴日や時間帯を調整している。	入浴習慣やその日の気分、体調を考慮しつつ、利用者一人ひとりが週2回入れるようにしている。福祉用具や職員介助で安心できる入浴を支援している。職員との楽しい会話や一緒に歌を歌うなど、気分転換や寛げる時間となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間は一人一人の生活習慣やその時の状況に応じて対応している。休息については、疲労感や訴えに応じた対応ができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の管理を行い、副作用の出現や症状の変化を医師に報告している。薬剤情報で確認したり、薬剤師や訪問看護師に注意して観察する部分の助言をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除や洗濯もの、食事の後片付け、新聞の配達や趣味活動(裁縫や塗り絵、貼り絵、オセロ、カメラ、唄)等の得意とすることをこなしていただいている。		

グループホーム鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和1年度は個別外出行事やご家族様とお墓参りや選挙の投票、正月帰省等ができたが、令和2年度の外出は、受診時のみしかない状態が続いている。	昨年はイチゴ狩りや花見、近隣のレストランや農場直売所、地域行事などへ出かけている。今年度は感染症対策のため外出は自粛しているが、毎月1回、南幌町のかかりつけ医の定期受診に職員同行で外出し、車窓から景観を楽しむ機会がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を自分で所持している方は数名います。所持していることで安心していると思われます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や親族の方、友人等からの電話やご本人様の訴えに応じて対応している。贈り物や手紙がきたときにもお礼の電話をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やトイレ、浴室には手すりが設置されている。リビングや廊下、自室には温度・湿度計を設置し、室温や湿度に注意している。室内は日当たりも良く、窓からは自然豊かな景色を感じることができます。入居者様が作成した作品を飾り、季節感を感じることができるようにしています。	共用空間は広く、利用者が安全に移動できるように手すりを設置している。ユニット中央の廊下は歩行訓練や体操に活用し、壁には季節感ある利用者の作品や行事の写真を数多く飾っている。窓から広大な景色を眺め、利用者や職員の会話も多くなっている。玄関ポーチの段差は職員介助や見守りでやっている。	玄関は職員の介護技術により車椅子での出入りが担保されているものの、災害等緊急事態における安全面を考慮して、玄関設備(スロープ)の検討について期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや自席の配置は、気の合った利用者様同士が自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様やご本人様と相談して、使い慣れているものや好みを活かした自室になっている。湯呑や茶碗、箸等も個々に用意して頂いている。	生活習慣を継続するために利用者や家族と相談して環境を整えている。使い慣れた椅子やベッド、時計や日用品類などを活かし、利用者が心地よく過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器、ベッドの用意等、個々の能力や状態に応じたものをご家族様と相談しながら用意し、自立支援に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800309		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム鶴城の郷(ユニット名)たんぼぼ		
所在地	空知郡南幌町南18線西11番地		
自己評価作成日	令和2年10月26日	評価結果市町村受理日	令和2年11月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0175800309-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鶴城の郷は平成15年10月1日に開設されています。2ユニット、18名様の入居が可能です。南幌町の市街からは離れていますが、建物の空間が広く、開放的な雰囲気です。周囲は農家の方が多く、窓からは麦畑や田んぼの風景がみられます。入居者様も農家の方が多く入居されています。時期になると窓から田畑の様子をみて季節を感じておられます。南幌町の夕日はとてもきれいで有名ですが、鶴城の郷からもきれいな夕日を入居者様と一緒に楽しむことができます。1日1日、自然を感じながら、のどかに生活時間が流れていきます。グループホーム鶴城の郷のケア理念にあげている「ひとりひとりのペースを守り共に支え合う」ことが、自然の中にある立地条件によって、より豊かにケアを実践できていると思っております。現在はコロナの流行によりご家族様の面会の制限、地域の皆様との交流ができていない状況下ではあります。ご家族様には毎月個別にお便りを作成し、日々の様子をお伝えしています。また、感染防止対策しながら、施設内で楽しめる行事を企画し、実行しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年11月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、スタッフルームや契約書に提示。職員やご家族様と共有できるようにしている。また、年間の事業計画では、個々や地域密着を意識した行事を企画しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和元年度は、バーベキューや餅つき、地域の方やご家族様に参加して頂いた。また、学童交流の一環として、夏休み期間に子供たちがホームに来訪。一緒にゲームや七夕行事を楽しむことができた。令和2年度については、コロナ渦のため、地域の交流や面会の制限、外出の制限の状況です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学童保育の生徒の訪問や地域行事への参加、実習生の受け入れを通じて、理解していただく場としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を実施。報告と話し合いを行い、地域の方や保険者からの意見やアドバイスをいただき、運営に反映させている。令和2年度～コロナの感染症対策として、外部の方の出入りが禁止の状態となり、書面での報告を2ヶ月に1回行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、情報交換を常に行なっている。通常は運営推進会議や避難訓練への参加もお願いしている。令和2年度は会議や訓練の参加はお願いできませんでした。主にコロナの関係で情報共有していることが多いです。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針を契約書に提示。契約時、ご家族様に説明している。職員は内部や外部の研修に参加したり、身体拘束委員会が拘束チェックシートやセンサー使用者の見直しを毎月行っている。正面玄関は夜間以外は常に出入りできる状態です。奥の玄関のドアは離設を予防のため、プザーを設置している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部の研修やミーティングの場で不適切なケアに繋がっていないか振り返る機会を設けている。また、日々の業務で職員同士がお互いに注意し合えるように心がけている。		

グループホーム鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象となる入居者様はいませんが、必要性に応じて、関係者に都度相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づいてご家族様にご説明をしている。改定の場合は、改定内容の書面通知と同意書を頂くようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際にご家族様に最近の様子をお話する機会があったが、現在はコロナ渦により面会の制限があり直接意見を伺う機会が少ない。電話での連絡が主となっている。アンケートの配布を行い、運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンスでの話し合いの他、日々の業務の中でも遠慮なく話し合える関係性を意識している。また、職員と管理者は年に2回の個人面談があり、悩みや意見を出し合う機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や目標達成に応じた評価を行なっている。職員の個人面談を行い、労働条件等の希望や把握に努めている。体調や年齢、家庭の状況に考慮した勤務体制に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会の参加の機会やグループホーム内での伝達研修を行なっている。新人職員が入職した場合は、研修期間を設け、担当を配置している。個人のスキルアップのための研修や資格の取得のための試験はシフト作成時に考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	令和元年度は、町内のグループホームと3ヶ月に1回、情報交換する機会や合同で普通救命講習を消防署で行った。令和2年度はコロナ渦にて実施できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様や利用していたサービス機関の関係者からの情報をもとに、ご本人様の不安や要望に耳を傾け、習慣への理解や落ち着く環境(場所や職員、相性の合う入居者様とのペアリング)の提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時に困っていたことや入所後に心配されていることや要望をご家族様と話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居調整段階で必要なサービスを把握し、他業者への依頼を含め、スムーズに入居時にサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事参加や趣味活動等と一緒にやっている。日々の暮らしの中での役割やご本人様の思いを大切に開くように心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や行事と一緒に参加をさせていただいたり、毎月個人便りで近況報告しています。また、面会時の情報の交換など共に支え合える関係を築いています。令和2年のコロナが流行してから、制限されている部分がありますが、電話やお手紙等で出来る限りの対応をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人への電話や面会の支援、お寺や病院等、以前から利用しているところが継続できるようにご家族様の協力をいただきながら支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を把握し、食事の席やソファの工夫、外出時のメンバーに配慮している。また、交流が少ない入居者様もいますが、負担にならない程度で活動や行事にお誘いしています。		

グループホーム鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の行き先の確保に協力し、利用者様やご家族様が不安にならないようにしている。また、退所先に情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活記録にご本人様の言葉を記載するように心がけている。その人らしさを重視したケアプランの作成に努めている。年間の習慣行事の要望はできる限り希望に沿って対応できるように工夫やご家族様に協力を仰いでいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中でご本人様からの話を伺い、ご家族様やケアマネや入所していた施設や通所の関係者等から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や体力に応じた過ごし方を重視している。1日に2回のバイタル測定や精神状態や一般状態の把握し、申し送りを通じてスタッフ全員が把握できるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化時や定期的なカンファレンスやモニタリングを実施、個別の介護計画書を作成している。必要に応じて主治医や看護師、歯科医師や歯科衛生士、栄養士、リハビリスタッフ等に相談することができる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録は日々のケアに関する変化や気づき、本人様の反応等を記載するように心がけ、カンファレンスやモニタリングで介護計画の見直し、原因の追究に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の他事業所の専門職や町内の歯科医師、訪問理美容と連携をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防や学童交流、ボランティア等の地域の方々との活動や協力を定期的に受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、主治医の定期受診や検査の受診同行をしている。その他の専門医への受診はご家族様と相談のうえ、希望する医療機関への受診支援を行なっている。		

グループホーム鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションや協力医療機関への情報報告を毎日行っている。また、毎週木曜日は訪問看護の看護師が来訪し、相談や助言、医師の指示に基づいた処置や指導を受けられる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の進行やADLの低下は入院による環境の変化によって起きやすいため、早期に退院できるように病院側との連携に努めている。また、訪問看護を活用する場合がある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針に沿って、利用者様・ご家族様が医師と相談できる体制を作っている。また、契約時に説明し、ご家族様の考えをお聞きしている。経口摂取ができなくなると対応が困難であることは事前にお伝えしている。終末期には、医師の説明と一緒に聞き、ホームでの対応を丁寧に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防での救急の研修(令和1年)や法人の協力を得ながら定期的に研修に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火訓練を実施している。令和2年はコロナ禍にて、訓練はユニットごとで実施。消防の立ち会いや地域の方と一緒に訓練は行うことができていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、性格や生活歴に配慮した対応をしている。また、プライバシーに配慮した声かけや対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の関わりの中で、自己決定や選択できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや過ごし方を大切にしている。日課は、各自の希望に寄り添って、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容利用し、カットやカラー、パーマを希望を伺って予約している。身だしなみやおしゃれについては、色の好み等はご家族様にご協力を頂いている。		

グループホーム鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片づけは役割を持って行っていただいている。苦手な食材や禁食、咀嚼・嚥下の状況に応じ、代替品を提供している。お菓子や軽食作りの行事は、入居者様とスタッフが一緒に作業を行い、楽しみます。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは専門職が作成している。ご本人様の嗜好に合わせた飲み物や食材で必要量が摂れるように支援している。また、嚥下困難な方はトロミ剤やミキサー、刻み等の工夫をしている。栄養不足の方は医師と相談し、栄養補助食品を提供したり、甘酒をご家族様に購入していただいている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の能力に応じた口腔ケアを行なっている。舌の汚れも必要に応じてケアをしている。変化があれば歯科医院を受診しています。訪問歯科に定期的に診て頂いているが、現在はコロナ感染予防のため、一時中止が続いている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声かけや時間でのトイレ誘導をしている。パットやオムツの使用を最小限に考え、パットやオムツの種類も適時検討している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	室内散歩やテレビ体操、手すりを利用した体操等運動は毎日行っている。水分補給はこまめに提供しています。オリゴ糖や甘酒、酵素酢、イージーファイバー等を個々に応じて工夫しています。また、起床時に冷たい牛乳を提供し、便秘の予防に取り組んでいます。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気分や体調に合わせて入浴日や時間帯を調整している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間は一人一人の生活習慣やその時の状況に応じて対応している。休息については、疲労感や訴えに応じた対応ができています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の管理を行い、副作用の出現や症状の変化を医師に報告している。薬剤情報で確認したり、薬剤師や訪問看護師に注意して観察する部分の助言をもらっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除や洗濯もの、食事の後片付け、新聞の配達や趣味活動(裁縫や塗り絵、貼り絵、オセロ、カメラ、唄)等の得意とすることを行なっていただいている。			

グループホーム鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和1年度は個別外出行事やご家族様とお墓参りや選挙の投票、正月帰省等ができたが、令和2年度の外出は、受診時のみしかない状態が続いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を自分で所持している方は数名います。所持していることで安心していると思われます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や親族の方、友人等からの電話やご本人様の訴えに応じて対応している。贈り物や手紙がきたときにもお礼の電話をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やトイレ、浴室には手すりが設置されている。リビングや廊下、自室には温度・湿度計を設置し、室温や湿度に注意している。室内は日当たりも良く、窓からは自然豊かな景色を感じることができます。入居者様が作成した作品を飾り、季節感を感じることができるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや自席の配置は、気の合った利用者様同士が自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様やご本人様と相談して、使い慣れているものや好みを活かした自室になっている。湯呑や茶碗、箸等も個々に用意して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器、ベッドの用意等、個々の能力や状態に応じたものをご家族様と相談しながら用意し、自立支援に努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム鶴城の郷

作成日：令和 2年 11月 17日

市町村受理日：令和 2年 11月 19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策については、火災想定訓練を日中と夜間の両方を実施している。近年、自然災害(地震や水害)も多くみられるため、火災だけではなく地震や水害を想定した訓練も必要になってきている。また、災害時の持ち出しリストと必要物品の用意が進んでいない。	非常時災害時の訓練と災害時の備蓄の整備。	①地震や水害を想定した避難訓練の実施 ②非常災害時の持ち出しリストの作成と必要物品の準備	1年
2	52	玄関は段差があり、車いす使用者の外出の出入りは介助で行っている。入居者様に振動がないように気をつけているが、スムーズな対応とは言えない状況だと思えます。	車椅子の入居者様でもスムーズに外出できる環境を整備する。	①玄関用の簡易スロープ購入の上申	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。